

新編 欽定 大清會典事例 卷之...

柳原公使上海ヨリ島津岩倉兩大臣へ清國

製艦及ヒ艦數云々來翰 六月廿三日

清國ノ儀ハ隣接ノ大邦ニテ其盛衰強弱ノ勢常ニ我國ニ關係シ特ニ今般征蕃ノ一舉大ニ清朝上下ノ物議ヲ起シ旁以國政軍備人心向背等注意スヘキ事ト愚考致候仍テ當節公務ノ暇廣ク清歐諸人ニ交際シテ探索仕居候折柄海軍ノ力ヲ檢査シテ先列紙ノ通り上海福州西邊ニテ所備造ノ艦數已下承知致シ候間為御心得獻覽候當國造船局ハ福州ヲ最トシ上海次之外ニ漢口廣

卷之...

州天津ニモ小局アルヨシニ風兼候別紙所載ハ
近年新製シテ船艦備砲共ニ精良ノ由但艦將ハ
水路案内者ヨリ撰擧シタレハ學術不精兵則急
情ヲ不免乍併造船技術ハ蘊奠ヲ學得既ニ教師
ノ西洋人追々免放シテ爾後清人獨力ニテ可製
造即今所有スル分總計二十隻餘ナリ頃日ノ時
勢ニヨリ總甲鍊ノ大艦三隻歐洲ヘ注文致シ候
且英國ヨリ亞細亞ヘ遊汝候アイロンジエク公鍊
ト可ト稱セル有名ノ良艦買入ノ談判ニ懸リ居
候哉ノ趣モ浮言候但シ真偽未審候尚追テ詳細
取調ヘ後日可呈覽候ヘドモ不取敢如是御坐候
也

清國江蘇府上海縣ニテ書

明治七年六月廿三日 柳原全權公使

島津左大臣殿
岩倉右大臣殿
勝海軍卿殿

別紙

上海ニテ製造セル軍艦

番號 艦名

海軍省

福州造船局

一號	怡吉
二號	操江
三號	測海
四號	威靖
五號	海安
六號	馭遠

福州ニテ製造セル軍艦

前光 考フルニ福州造船局ハ我慶應三年ヨ

リ建設シ今年二月十六日備入ノ西洋教師

ノ免放ス

小軍艦ナリトハ

西洋曆ニテトランスポルトナル者
算スハ軍艦ニテ運送船

番号	落水ノ年月日	艦名	軍艦種類	噸數	馬力	砲數
一號	千八百六十九年六月十日	ワラミエイン	トランスポルト	千四百五十	百五十	六人
二號	千八百六十九年十二月六日	メイエン	ゴンボラト	五百十五	八十	七十人
三號	千八百七十年五月三十日	ワラウシン	ゴンボラト	五百十五	八十	七十人
四號	千八百七十年十二月廿二日	伏波	トランスポルト	千二百五十八	百五十	五十人
五號	千八百七十年六月十八日	安瀾	トランスポルト	千零五十		五十人
六號	千八百七十年十一月廿八日	鎮海	ゴンボラト	五百七十二	八十	七十人

福州造船局

十五号	十四号	十三号	十二号	十一号	十号	九号	八号	七号
千八百七十四年 一月下旬	千八百七十三年 十二月下旬	千八百七十三年 十一月八日	千八百七十三年 八月十日	千八百七十三年 一月二日	千八百七十三年 十二月十日	千八百七十三年 八月廿一日	千八百七十三年 六月三日	千八百七十三年 四月廿三日
艦名未詳	千エンハン	海鏡 <small>ハエ、キボウ</small>	永保 <small>ヨシ、ハコ</small>	濟安 <small>ツイ、ナアン</small>	千ウロミヲカエシ	靖遠 <small>ツイ、ニヤン</small>	飛雲 <small>ツイ、イウン</small>	洋務 <small>カン、カラン</small>
トランスポルト	トランスポルト	トランスポルト	トランスポルト	トランスポルト	ガンボラト	ガンボラト	トランスポルト	是極メテ快キ船 コルウ。エツト
千三百九十一 百五十	千三百九十一 百五十	千三百九十一 百五十	千三百九十一 百五十	千二百五十八 百五十	五百七十二 八十	五百七十二 八十	千二百五十八 百五十	千三百九十三 二百五十
百三十人 扱	百三十人 扱	百三十人 扱	百三十人 扱	百五十人 扱	七十人 扱	七十人 扱	百五十人 扱	二百三十人 扱

柳原公使上海ヨリ寺島外務卿へ柳原宛総
 理衙門来翰并泉州道臺米國領事宛来書其
 他数件来翰抄略 六月廿三日

一 臺灣蕃地出征将士へ洋醫壹名被遣并製氷
 器械下賜其巨細ハ當地分局ニテ可聞取旨公信
 ニテ来示ニ候ハ長崎支局判任官一兩名事情
 探索ノ夕メ罷在候ノニテ當地ニ分局無之候
 ニハ更ニ一向承知不致候右ハ癸是前大久保参
 議ハモ申込置尚ホ今便モ大隈参議へ相通ニ候
 間 台湾事件ニ係リ内外往復トモ西郷都督長崎

臺灣蕃地事務局